

学校だより

No.13



いずみだい

令和6年2月1日

北九州市立泉台小学校 校長 倉方 寿士

学校教育目標

「心豊かにたくましく生きぬく実践力のある子どもの育成」

～自分の未来を、自分で切り拓く力を育む～

めざす子ども像

進んで行く子ども 元気な子ども 仲良し子ども
～一生懸命に、真面目に、頑張る 子ども!～

令和5年度

全国学力学習状況調査結果の報告と今後の取組について



文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

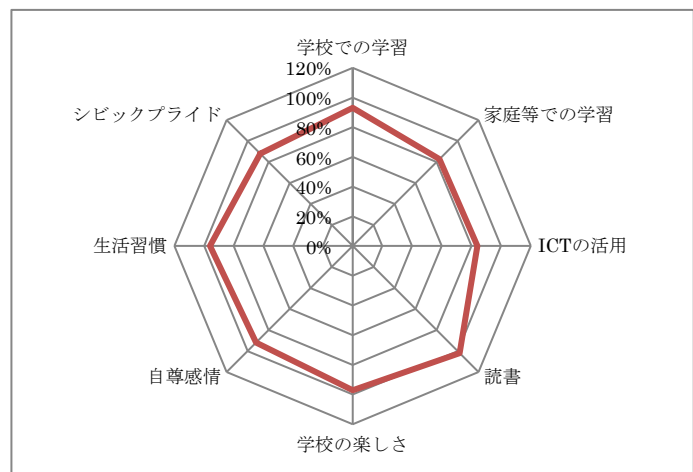
1 教科に関する調査結果の概要

	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	文章の種類とその特徴の理解についての問いには、全国平均を上回っていた。目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける。文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。
算数	高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、説明することについては全国平均を上回っていた。図形の意味や性質の理解、割合についての理解、二次元の表から条件に合う数値を読み取る、示されたグラフと複数のグラフを組み合わせたグラフを読み見出した違いを言葉と数を使って説明する。

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

〈質問紙調査の結果分析〉

- 「友達関係に満足しているか」「人の役に立つ人間になりたいか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。
- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。



- ・ 「家庭学習において ICT を活用している」と回答した割合が低かった。家庭での学習時間の確保もふまえて、今後は、個に応じた指導の場面や、総合的な学習の時間や英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

自ら課題を見出し、主体的・対話的で深い学びが実現する学習活動を積み重ねていく必要がある。そのために、

- 言語の基礎的・基本的能力を高めるために MIM の継続実施と学習の基盤となる認知機能を高めるためにコグトレを実施していく。
- 漢字や計算などの基礎の定着のため ICT 機器の活用を図る。
- 思考判断表現力を高めていくために話し合い活動を充実させる。その際、話し合いの焦点化を図り、全員参加ができるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の意義や取り組み状況等について、学年・学級通信懇談会等あらゆる機会を通じて家庭や地域に発信する。
 - ・ 学年×10分を家庭学習の時間の目安として設定している。
 - ・ 3年生からは、自主学習に取り組むものとし、参考となる児童の作品などを展示する。
- 生活習慣・生活態度の見直し・改善について家庭へ働きかける。
 - ・ 月1回の生活アンケートを実施し、それに基づいて生活指導を行う。